

「テクノ未来塾」

2017東京フォーラム (第166回)

決してあきらめない！
“G-SHOCK開発ストーリー”
その後

“学んだこと”

(13:20～15:20)

講 師 伊部 菊雄氏

- 日 時 2017年7月8日(土) 13:20～17:00
(12:50開場)
- 会 場 中央区立環境情報センター 研修室1・2

主 催 特定非営利活動法人「テクノ未来塾」

決してあきらめない！

“ G-SHOCK開発ストーリー ”

その後

“ 学んだこと ”

新しいコンセプトを創るには？

自主プロジェクトを成功させるには？

開発ストーリーは苦労談を伝えること。

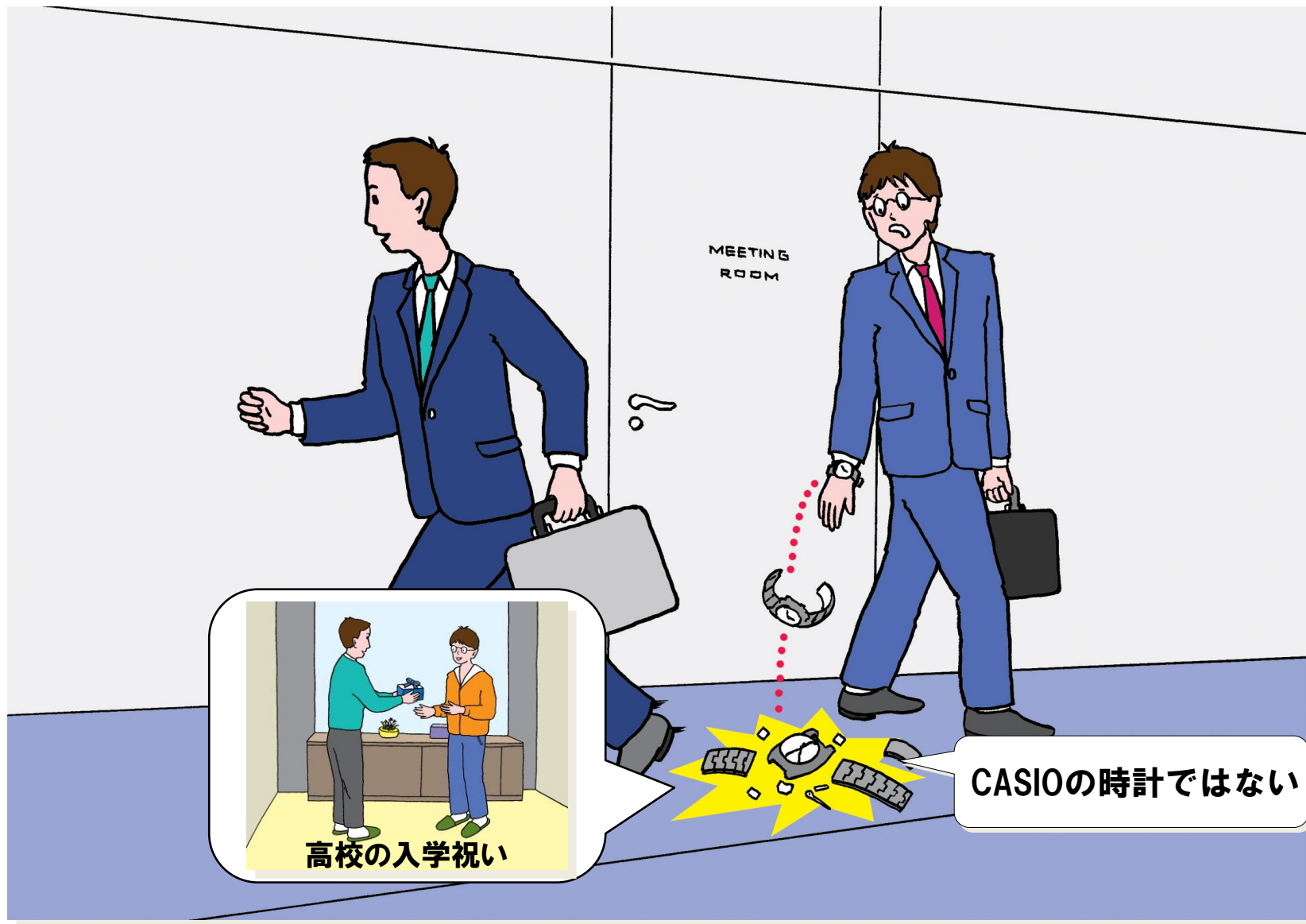
若手への勉強会で学んだこと。

**資料は抜粋ですが、
今回の私のお話は、
経験及び事例を中心に、
いろいろな角度からいたします。
少しでも皆様のお役に立てれば
幸いです。**

～G-SHOCK開発STORY～

1983年4月発売





36年前のショッキングな出来事がスタート。

新技術・新商品提案書

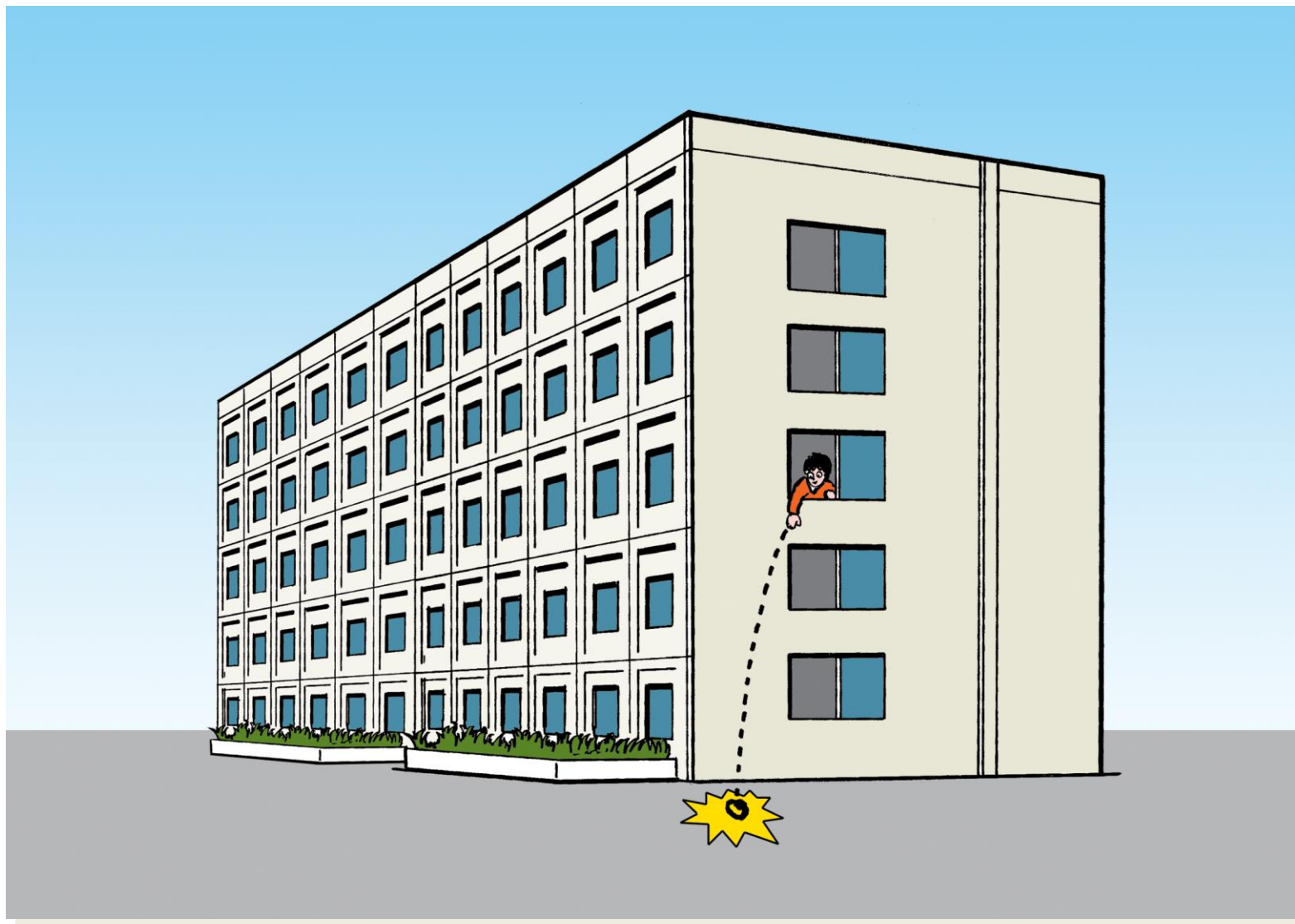
テーマ名

『落としても壊れない丈夫な時計』

構造案

実験スケジュール案

たった1行の提案書で開発G0が出た。



**時代に逆行する商品になる為、
目立たない場所(トイレの窓から)で実験をすることにした。**



ゴムが4ヶ所付いていればOKだろうと、軽く考えていた。

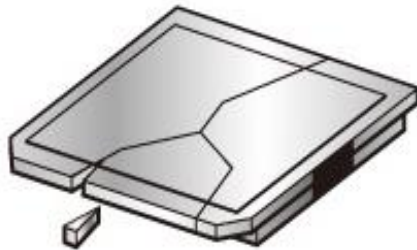


**ソフトボールの大きさでようやくOK、
とんでもない非常識なことを考えてしまったと、痛感。**



**心臓部を衝撃から5段階で吸収する構造を
開発することによりサイズは、劇的に小さくなったが、
非常に大きな問題を抱えていた。**

モグラ叩き現象となり 全く解決策が無くなってしまいました。



LCD 割れ



チョークコイル切れ



水晶割れ



万策尽きたが、解決策は必ずあると信じていた。

**解決策が全く見出せなくなり
最後の手段としてこんな行動に
出てしまいました。**

• • •

詳細はお話で。

No.11

**ロングセラーになった大きな理由の一つは
コンセプト(丈夫である)が、
いつの時代にも通じるものであった。**

新しいコンセプト・テーマの創り方

First Step

自分の業界で通じる10文字以内を考える。

贅肉をすべてそぎ落とす。

(普遍テーマの可能性大)

Second Step

開発課題(自社コア技術関連)が出てくるまで掘り下げる。(25文字以内)

Third Step

行き詰ったら、10文字に戻る。

アイデアは、無限であるが、99%は使えない。

1%の為に考えることをあきらめない。

(目の前のアイデアを愛し過ぎない)

具体例はお話で

No.13

新しいことを実現する為の、自主的なプロジェクトを成功させるには？

<リーダーの役割>

メンバー全員の思いを一つにすることが50%。
(スタート時に、目指す姿を共有する)

モチベーションを維持させることが50%。
(こちらが特に難しい、リーダーの最大の仕事)

<リーダーが注意すること>

**ゴールが決まったら、リーダーは、
メンバーに譲れる部分と、譲れない部分を明確にして、
信頼が得られる調整をすること。**

**現在の私のミッションの一つは、
開発ストーリーを世界中に伝えること。**

**開発ストーリーを通じて、メッセージとして
Never Never Never Give Upを伝えている。
（自分自身も、努力していなければ相手の心に響かない）**

どの部門も伝える努力で共感を得られる

開発ストーリーは商品すべてにある。(伝えることは、だれでもOk)

exp.

生産現場の方は

高品質を生み出す為に、どんな苦勞をしたかを語る。

営業の方は

良さを分かってもらうための苦勞談や夢を語る。

- 1. 大切なことは、ユーザー目線(作り手の勝手にならない)であること。**
- 2. 苦勞談を語る。(人間臭さに、共感する)**

苦勞談に共感＝商品への共感

学ぶことは大好き。(＝学ぶことで満足？)

**チャレンジしよう! では、
通じない。(＝失敗したくない？)**

**伸ばすには、経験をするのではなく、
成功体験が不可欠。**

成功体験をしてもらうには？

**成功体験は、小さなことでOK。
大切なことは、出来たことを評価し、
褒めること。**

(＝褒めることが成功体験になる)

**成功体験をいくつ積み上げたかが大切で、
次のチャレンジにつながる。**

ご清聴ありがとうございました。

伊部 菊雄 (いべ・きくお)

カシオ計算機株式会社

時計事業部 モジュール開発部 モジュール企画室 主幹

1952 年生まれ。1976 年上智大学理工学部機械工学科卒、カシオ計算機入社。時計設計部に所属し、デジタル時計の薄型化構造開発を担当。高校入学祝の時計を会社で落としてばらばらに壊してしまった実体験から 1981 年に「落としても壊れない丈夫な時計」というテーマを掲げ、耐衝撃構造の開発をスタート。

2 年を費やし「G-SHOCK」として商品化に至る。その後、外装素材にメタルを用いた G-SHOCK「MR・G」や、さまざまな時計の商品企画に従事。

その後、開発に移り、時計の開発を行いながら、「Father Of G-SHOCK」として世界各国で行われている G-SHOCK のイベントに参加し、30 ヶ国以上でブランドの世界観を広める活動を行っている。参加者に理解を深めてもらう為に、通訳を介さず、母国語で開発ストーリーをプレゼしている。

尚、G-SHOCK は、昨年度までで累計 9000 万個超を販売しており時計業界を代表するヒット商品になっている。

また、自分のノウハウ（考え方）を若手に伝えることが大切と考え、10 年前から若手との勉強会をスタートさせ、現在 5 期生に伝えている。